

## プレスリリース

日興アセットマネジメント株式会社

## 日興アセット、ハウスビューを更新 グローバル株式のオーバーウェイトを維持

- 長期に及ぶグローバル株式のオーバーウェイトを維持
- FRBによる利上げ予想は2015年6月~7月から第4四半期に変更
- ユーロ圏の半年間のオーバーウェイトは、株式のバリュエーションの上昇を踏まえて解消
- G3(日米欧)と中国経済の成長を見込み、新興国経済にポジティブ

日興アセットマネジメント(以下、「日興アセット」)のグローバル投資委員会(GIC)は、グローバル株式のオーバーウェイトを維持することを決定しました。G3(日米欧)経済が堅調に成長するとともに株式も穏やかに上昇し、米国の利上げを勧告してもなおバリュエーションは安定して推移すると予想しています。

日興アセットのGICは、2011年9月以降の15四半期中、14四半期において、グローバル株式をオーバーウェイトとしています。GICのアナリストは、「G3経済は現在の市場コンセンサスを上回る経済成長を達成しようとしています。米国は例年になく今冬の厳しさや西海岸の港湾労働者ストライキから立ち直り、ユーロ圏と日本の経済は予想よりも早く回復するとみています」と述べています。

日興アセットのチーフ・グローバル・ストラテジスト兼GIC議長であるジョン・ヴェイルは、次のように述べています。「いつものように、気がかりな問題はいくつもありますが、株価の穏やかな上昇を妨げるほどの懸念材料は見当たりません。今や米国の利上げもコンセンサスです。これが実行されると市場のボラティリティ(価格変動)が高まる可能性はありますが、テーパリング(量的金融緩和政策の縮小)のプロセスに比べれば大きな問題ではないでしょう」。ヴェイルは、テーパリングの過程においても米国株は極めて強い上昇をみせたことを併せて指摘しています。

米連邦準備制度理事会(FRB)の金融政策について、GICは、6月か7月にも最初の利上げが実施されると予想していましたが、この見通しを第4四半期に変更しました。米国の経済成長は堅調に推移しているものの、9月までの消費者物価指数が前年同期比で芳しくないためFRBが安定的なアプローチを取ることになるとみています。

ジョン・ヴェイルは、「米連邦公開市場委員会(FOMC)の今年の委員名簿には多くのハト派委員が含まれており、従来からFEDの中核は伝統的に極めてハト派的な性格が強いメンバーで占められています。そのため、年末時点の政策金利(フェデラルファンド金利)は0.50-0.75%に抑えられると予想しています」と述べています。

ユーロ圏の株式におけるバリュエーション上昇を踏まえ、GICはこれまでの半年にわたるオーバーウェイトをアンダーウェイトに変更しました。GICは今後半年間、欧州株式がアンダーパフォームすると予想しています。その一方で、米国、日本、およびアジア太平洋地域(除く日本)の株式はほかの地域よりもよいパフォーマンスを挙げるとみており、オーバーウェイトとするにふさわしいと評価しています。

ジョン・ヴェイルは次のように述べています。「ユーロ安に加え、極めて低水準にあった欧州経済への信頼が急速に回復したことに伴って株価が上昇した結果、ユーロ圏の株式のバリュエーションはかなり急騰しました。市場は企業収益が株価に追いつくのをいったん待つと考えられます」。

米国株式については、S&P 500 の今後 12 カ月ベースの予想 PER が 17 倍と歴史的にみて高い水準にありますが、当社のアナリストは、金利が 1950 年代以降のどの時代よりも構造的に低水準にあるなか、適正なバリュエーションであると判断しています。米国経済にはいろいろな様相が入り混じっているものの、当社のアナリストは最重要の要因である個人消費は非常に底堅いとみています。

その他の地域では、中国経済と新興国市場について、当社のアナリストは楽観的にみており、世界第 2 位の規模を誇る中国経済における 4-9 月期の成長率は 6.9%(季節調整済みの年率換算値)と予想しています。

ジョン・ヴェイルは次のように述べています。「G3と中国の力強い成長見通しに加え、ハト派的な中央銀行の性格や商品価格の上昇を踏まえ、新興国経済全般に対してこれまで以上にポジティブです。アジアの新興国経済は、国内需要が堅調であるうえ、対外不均衡も極めて小さいことから、今後も底堅く推移すると見込んでいます」。

日興アセットの GIC は 3 月 24 日に会合を開き、世界経済情勢の四半期レビューを行ないました。世界中の運用プロフェッショナルの調査結果に基づき、日興アセットは世界の主要な市場と資産クラスについてのハウスビューを定期的にアップデートしています。最新の主な見通しは以下のとおりです \*1。

- 日本： 2015 年 4 月～9 月末の GDP 成長率は 2.8%(季節調整済み、前半期比)。株価は 2015 年 9 月までの半年間に TOPIX で 10.5%上昇(円ベース)
- 米国： 2015 年 4 月～9 月末の GDP 成長率は 3.2%(季節調整済み、前半期比)。株価は 2015 年 9 月までの半年間に S&P500 で 6.1%上昇(米ドルベース)
- ユーロ圏： 2015 年 4 月～9 月末の GDP 成長率は 2.1%(季節調整済み、前半期比)。株価は 2015 年 9 月までの半年間に MSCI Europe で 4.1%上昇(ユーロベース)

以上

\*1 日興アセットの基準日である 3 月 20 日からの比較。

(注)特に断りのない限り、日付はすべて暦年ベースです。

当資料は日興アセットマネジメントが市場環境等についてお伝えすること等を目的として作成した資料であり、特定商品の勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。資料中において個別銘柄に言及する場合がありますが、これは当該銘柄の組入れを約束するものでも売買を推奨するものでもありません。当資料の情報は信頼できると判断した情報に基づき作成されていますが、情報の正確性・完全性について弊社が保証するものではありません。当資料に掲載されている数値、図表等は、特に断りのない限り当資料作成日現在のものです。また、当資料に示す意見は、特に断りのない限り当資料作成日現在の見解を示すものです。当資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。当資料中のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。尚、資料中の見解には弊社のものでなく著者の個人的なものも含まれていることがあり、予告なしに変更することもあります。

当資料は弊社の広報担当者の事前の許可なく転載及び引用される事を固く禁じております。内容についてご不明な点等ございましたら弊社広報 03-6447-6775 までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

## 日興アセットマネジメントについて

日興アセットマネジメント株式会社(以下、日興アセット)は、1959年の設立以来、さまざまな地域や資産クラスを対象とするアクティブ運用、パッシブ運用、オルタナティブ運用など幅広い資産運用サービスを提供しています。長年にわたり培ったグローバルな専門性や優れた運用能力が、リッパー、モーニングスター、マーサー、R&I、アジアインベスターなどの外部評価機関から高い評価を受けています。

日興アセットは経営の独立性を担保することでお客様の利益を最優先とする経営基盤を確立しています。この理念を背景に、三井住友信託銀行株式会社が当社株式の過半を、シンガポールのDBS銀行が一部を保有しています。

日興アセットグループ\*は、世界12カ国26拠点に1,400余名の従業員を擁し、290名超の運用プロフェッショナルが18兆円\*\*を超える資産を運用しています。銀行、証券会社、ファイナンシャルアドバイザーおよび生命保険会社などが構成する合計300社超のアジア有数の販売ネットワークを通じ、内外の機関投資家や個人投資家のお客様にサービスを提供しています。

(上記データはすべて2014年12月末現在)

\*日興アセットマネジメント株式会社、海外子会社および海外関連会社の総称

\*\*日興アセットマネジメント株式会社および海外子会社の連結運用資産残高(投資助言を含む)の2014年12月末現在のデータ

## 日興アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会

日興アセットマネジメント株式会社

〒107-6242 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

www.nikkoam.com